

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(112)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(112)—

1. 始めに

前報(111)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は声楽曲です。

PHILIPS 6514 319

モーツアルト オペラアリア集

キリ・テ・カナワ (ソプラノ)

コリン・ディヴィス指揮ロンドン交響楽団

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

PHILIPS 盤ということで、RIAA、正相、第4時定数 High で聴いていきました。ソプラノのキリ・テ・カナワによるモーツアルトのオペラアリア集ですが、カナワの伸び伸びとしたダイナミックな歌唱が、広大な音場で展開されます。ディヴィス指揮ロンドン交響楽団も柔らかい響きでバックを支えています。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、上記の盤の特徴がよく把握できます。

以上/